

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	東京臨海リサイクルパワー株式会社 プラント部
	電 話 番 号 等	03-6327-3220
公表の 担当部署	名 称	東京臨海リサイクルパワー株式会社 企画・総務部
	電 話 番 号 等	03-6327-3190

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： http://www.tgn.or.jp/tokyorp/
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
	冊 子	冊子名：
入手方法：		
そ の 他	アドレス：	

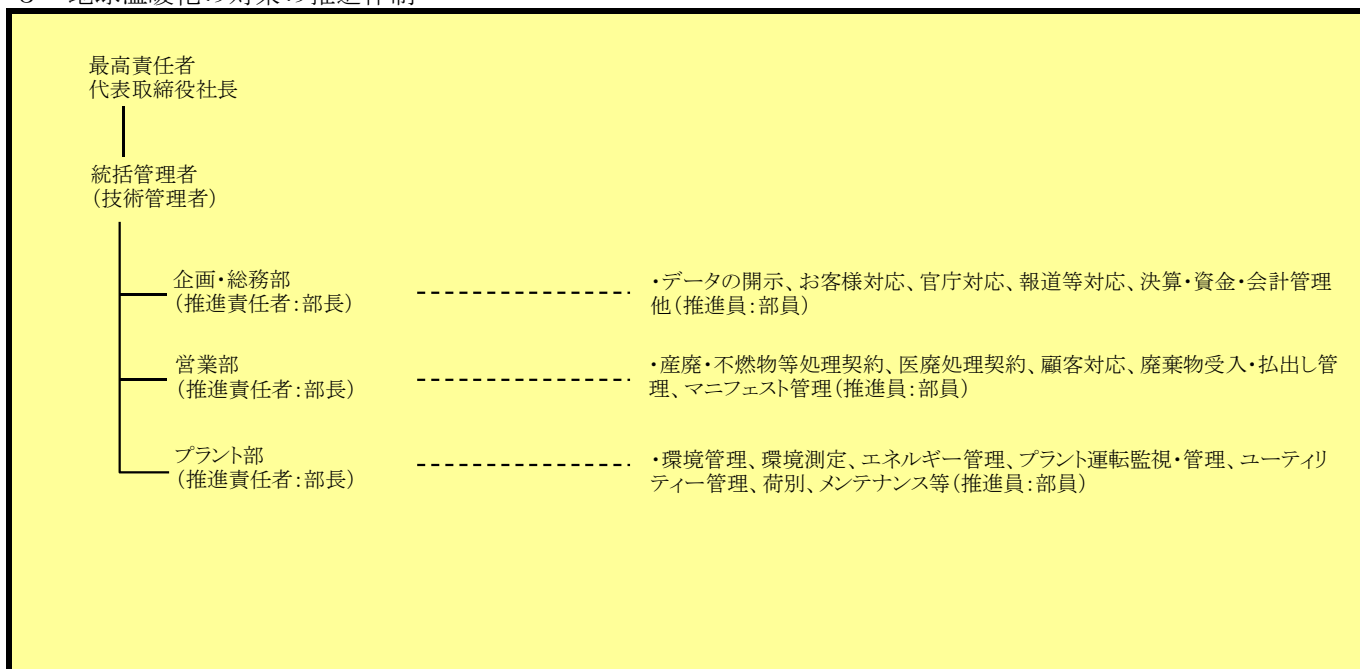
(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2014	年度	事業所の使用開始年月日	2007	年	4	月	1	日
特定地球温暖化対策事業所	2016	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

循環型社会形成の一役を担い、リサイクル、省エネルギー、排熱回収による発電の積極的な推進を図ること。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	灯油の代替燃料として再生油を積極的に使用することで灯油使用量を抑え、かつ所内照明のLED化を推進することで特定温室効果ガスの削減を目指す。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当社が排出する特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、産業廃棄物焼却処理によるものがほとんどである。当ガスの削減量は、お客様からの年間廃棄物受入量が直接影響する。従って、削減目標を設定することは事実上困難である。（削減目標値は0%とする。）		
削減義務の概要	基準排出量	t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	II
	排出上限量（削減義務期間合計）	18,816	t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	産業廃棄物施設の年間運用計画を総合的に作成し、安定かつ効率的な運転を実施すること、また構内照明のLED化を推進することで特定温室効果ガスの削減を目指す。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当社が排出する特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、産業廃棄物焼却処理によるものがほとんどである。当ガスの削減量は、お客様からの年間廃棄物受入量が直接影響する。従って、削減目標を設定することは事実上困難である。（削減目標値は引き続き0%とする。）

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO ₂)		4,744				
その他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)	206,590				
	メタン (CH ₄)	1				
	一酸化二窒素 (N ₂ O)	3,577				
	ハイドロフルオロカーボン (HFC)					
	パーフルオロカーボン (PFC)					
	六ふっ化いおう (SF ₆)					
	三ふっ化窒素 (NF ₃)					
	上水・下水	103				
合計		215,015				

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	237.6				

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2013年度～2015年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	Ⅱ
----------	---

(4) 削減義務期間

2016 年度から	2019 年度まで
-----------	-----------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)		5,004	5,004	5,004	5,004	20,016
	削減義務率 (B)		6.00%	6.00%	6.00%	6.00%	
	排出上限量 (C = Σ A - D)						18,816
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						1,200
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)						
	排出削減量 (F = A - E)						

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	リサイクル油（廃油）受入減少ならびに設備トラブル増加に伴い、灯油使用割合が増加したことで特定温室効果ガス排出量が増加。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
			【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】		
1	110400	11_エネルギー使用量の管理	再生油の使用推進	2014年度～	
2	150200	15_照明設備の運用管理	感知式照明器具およびLED照明器具の導入	2014年度～	
3	150200	15_照明設備の運用管理	ごみ受入プラットホーム照明のLED化	2015年度～	
4	150200	15_照明設備の運用管理	構内照明のLED化推進	2016年度～	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
	【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】				
51					
52					
53					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
61					
62					
63					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

1. 所内動力の削減

感知式照明器具および構内照明のLED化を進めるなどして省エネへの取組みを実施。

2. 再生油の使用推進による灯油の削減

助燃料として灯油および再生油を使用しているが、再生油を優先的に使用することで特定温室効果ガスの排出抑制に取組んだ。しかし、リサイクル油（廃油）受入減少ならびに設備トラブル増加に伴い、前年度と比較し灯油使用割合が増加したことで特定温室効果ガス排出量が増加した。